

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集兼 関根 永滋
発行人
電話東京(301)3421(代)

一月二十二日

第七十八回

同窓会例会開催さる



北村勝衛教授



山本義茂教授

例年二月に開催されていた例会は、本年は一月二十二日(日)に母校第二講堂において行なわれ、午後一時半より四時半まで前号予告に従って北村勝衛教授並びに山本義茂教授からそれぞれ御講演をいただいた。当日は予定より約三十分遅れて開会されたが、一月の寒さにもかかわらず多数の会員が熱心に聴講された。

まず北村勝衛教授の「欧米視察談」と題する講演は、昨年八月十三日より十一月二十二日まで欧米の歯科教育事情調査の目的をもって出張せら

れた際の御報告である。

同教授は、スエーデン国歯科医師会百年祭祝典、ウィーンにおける齒槽膿漏学会に臨まれ、さらに欧米各地の著名な歯科大学及び研究所等数十カ所を訪問されたが、これらについて見聞された様子を、御自分の専門分野は勿論、他の分野に関する点についてもくわしく、教授独自の表現法を用いて、カラースライドを映写しながら話され、聴衆を魅了した。

次いで、山本義茂教授は「矯正診断の在り方」と題し、教室員二名の方々とともに、資料装置等を示されながらスライドを用い、矯正患者の初診時の注意ならびに診療のコツ等について、臨床家にとって非常に有意義なお話をされた。

しかしながら、先生の豊富な御講演の内容を十分に解説なさるには時間が少なく、演者の山本教授、御来場の会員諸氏に万全を期し得られなかったことは誠に残念であった。

お礼

今回藍綬褒章を授与せられた上田貞三、向井喜男両氏の授賞祝賀会を開催致したところ、御多忙中にもかかわらず多数会員諸氏の御参会を得まして誠に有難う御座いました。

お蔭さまで盛大な祝賀会を行なうことが出来ましたことを主催者側として、厚く御礼申し上げます。

東京歯科大学同窓会

昭和三十六年二月二十日

参加会員各位殿

上田貞三氏 向井喜男氏

藍綬褒章授賞祝賀会開かる

一月二十二日、同窓会例会終了後、母校新館地下クラブ室において、今回藍綬褒章を授与せられた上田貞三、向井喜男両氏の授賞祝賀会が同窓会主催のもとに開かれた。集うもの約六〇名、福島学

長、矢崎会長をはじめ、田丸副会長、中井武一郎評議員その他諸氏の祝辞があり、同窓会としては両氏に記念品の電気スタンドを贈呈した。

なお上田氏は大正三年歯科診療所開設以来多年歯科診療に従事し、その間学童の口腔衛生予防等の保健教育につとめた功、向井氏は多年学校保健に貢献され、保健教育につとめられた功によってそれぞれ授賞されたものである。



記念品を贈られた向井氏(左)
及び上田氏(右)

(同窓会地下クラブ室にて)

寄稿

米国歯科百年祭に出席して (五)

付 ヨーロッパ諸国訪問記

教授 松宮 誠一

四、シカゴからニューヨークへ
明くれば九月五日朝、思いがけなく加洲大学人類学主任教授ダールバーク博士が車を持ってホテルへ訪ねて来て下さった。同博士は、とくに歯の比較解剖学では世界的権威者で、一九五七年のローマにおける国際歯科医学会議に私と同様に、代表講演者の一人として招待された人である。その節、われわれが同じホテルに宿泊して、たまたまある朝食堂でお目にかかり、大いに語り合ったのが縁となって、以後いろいろと研究のことやその他について親しくなった間柄である。お話によると、米国では今日から三日間日曜と休日とが続くゴールデンウィークで同博士も御家族とともに約百キロ離れた郊外へ休養に出かける予定になっていたのを、とくに私のため御家族だけ先発させ、同博士は一日遅れて出かけることに変更されたそうである。その御厚意、深く感謝の他はなかった。そして、シカゴ郊外のエバンストンにある国際ロータリークラブ本部に行きたいという私の希望を快く容れて、海かと思えばかりの広いミシガン湖畔のすばらしいハイウエーを自ら車を走らせて下さった。

壮麗な白壁の建物の本部を訪れ、私どもの東京西北ロータリークラブを代表して挨拶を述べ、再び同博士

の車でホテルまで送っていただいた。午後、大井教授、村瀬教授、小室、佐藤博士とともに再びノースウエスタン大学歯学部へ赴き、予めの打合せに従って学長室にてトイシヤール学長へ本学名譽講師の称号記を贈呈する。大井教授ならびに私が挨拶を述べ、同学長から深甚なる謝辞があつてから一同は同学長の心暖かい歓待をうけて乾杯を交わし、記念撮影をしてから、同学長の玄關まで



同学長もやはりロータリアンで、一九六一年の東京に於ける世界大会には、ぜひ行きたいと私に話しておられた。
翌六日は、一同グレイラインの観光バスに乗って市内見物に出かけた。バスが出発するや、ガイドが開口一番「われわれの町、シカゴ市には全く犯罪というものが見られませんが」。乗客一同思わずワッと吹き出した。

米国の一般大衆向料理はじつに不味い。割当ドルの関係から、ホテルやレストランの豪華な食事を毎日食べているわけにはゆかないので、大部分はカフェテリア(大衆食堂)やドラッグストア(軽食と喫茶の店)で済まされねばならない。最初のうちは珍らし気半分であったのでさほどでもなかったが、そろそろ鼻につき初めてきた。そして毎日こんな料理ばかり食べていたせいか、近頃さっぱり元気がなくなつて来たようである。そこで今夜は一つ奮発しよう

と、ホテルの食堂でビフテキの豪華版を食べることにした。この食堂はシカゴでも名物の一つだそうで、開拓時代の西部気分を満喫させてくれる。広い室内の飾付は申すまでもなく、全部当時の様式を現わし、数十入のボーイはすべて、白い羽根を頭に捜したインディアンの青年である。そして薄暗い照明の中を松火を片手に料理を運んでくるというしだいである。しかし、流石に料理は素晴らしい。しかし、ビフテキが胃袋に入るや否や、たちまち全身に元気が満ち溢れてくるような実感がした。

明くれば七日は晴天である。郊外のおハラ空港より午前十時発のアメリカーン航空機に乗り込み、デトロイト(自動車都)経由、バッファローに正午過ぎ到着した。バッファローは、有名なナイアガラ滝に近い、人口約六十万の工業都市である。ニューヨークへの途中、ここに二日間滞在して滝見物をする事になった。

まず、ホテルに荷物を下ろしてか

ら、一同はリムジン(大型のタクシー)に乗り込み、米国歯科医師会発祥の地、ナイアガラ、フォールス市を通り、約三十分ほど走ると、米加兩國旗が立つている国境橋に出る。カナダの税関で入国手続きをすると、割り合い簡単に観光客としてのビザを呉れた。ここからナイアガラ滝までの約二十五マイルは、世界でも有名な美しいナイアガラ河畔のドライブウェイである。

滝の近くにある広場に到着すると、深々と白い水煙が空高く上っており、太陽の光をうけて美しい虹がかかっていた光景は今でも忘れられない。

滝は米加兩國境であるゴート島を中心に、アメリカ滝とカナダ滝に分れ、後者の方が前者の倍近く大きく、幅約七八〇メートル、高さ四八メートルである。世界から集る観光客のため、各種の設備が設けられ、とくにマンハッタンホテルに到着した。

つばの近くにまで急流を溯って行く遊覧船などが繁盛している。この滝の高い落差と、豊富な水流は、じつに大したもの、その一部を電力に利用しただけで、人口約九万の電気化学、電気冶金工業の市街、ナイアガラ、フォールス市を形成したほどである。その後、カナダ、オンタリオ市の花時計を見てから再び米国領内にかえる。

バッファローは非常に静かな街で、南北戦争時代の記念碑や、古めかしい教会が多かった。九日、いよいよニューヨークに向かうことになった。午前十一時バッファロー発のアメリカーン航空機に乗り込み、約二時間半後に、ニューヨークのニューヨーク空港に到着する。羽田空港などとは比べものにならないほどの広大な空港である。直ちにタクシーで、豪華なマンハッタンホテルに到着した。

(つづく)

○夏期講習開催予定のお知らせ

永らく中止しておりました同窓会員のための講習会を近く開く予定であります。詳細については、次回の会報(四月)に掲載致します。

期 日 七月中旬より八月中旬まで
科 目 臨床各科目

○地方出張講習会についてのお願い

同窓会では、従来も母校内においては講習会を度々開いておりますが、遠方の会員には参加が困難な場合もあり、この点を考慮して、地方に講師の出張を行ない、講習会乃至は講演会を開く計画をもっております。この点につきまして、御希望なり御意見をおもちの方は、是非御申し出願いたいと存じます。

母校だより

○解剖祭

旧臘二十三日午後二時より、文京区真珠院で福島学長をはじめ、解剖学教室教授、教室員は勿論のこと、その他基礎、臨床の各教室教授及び教室員並びに御遺族、学生代表等が多数参列、大学の行事の一つとして厳格にとり行なわれた。戦時中より久しく中断されていたものが、復活されたのである。

○市川病院の新改築開始される

昨年末より外来病舎の取壊しに着手、現在歯科診療室取壊しを完了した。外來は仮建築病舎で診療を続行している。

○歯科学報は東京歯科大学学会機関誌となる予定

従来東京歯科大学出版部から出されてきたものが、学会機関誌として活躍すべく、近く決定される予定。

○第百五十三回東京歯科大学学会(例会)の開催

本月十一日(土)午後一時から本学第一・第二講堂の二会場において盛大に行なわれた。一般演題は総計四十四題をかぞえ、短かい演説時間(八分間)に対して活潑な討論が多数の演説について行なわれた。一般演説終了閉会後、引続いて左記の催しが第一会場で行なわれた。

(1)講演

ウィーンにおけるARPA総会
出席して
東京女子医大教授 村瀬正雄博士
(村瀬教授急用のため司会者米沢和

一教授が村瀬教授の講演内容原稿を代読、カラススライド8mmシネの映写等を行なった)

(2)映画

「ガムと斗う」(35mm総天然色)
司会・三崎鈔郎教授

○人事

講師昇任

高橋 一祐助手(保存) 三・三・一

氏家 英峰 (口外) 六・一・一

高北 義彦 (口外) 六・一・一

江崎極太郎 (補綴) 〃

懸田 利孝 (〃) 〃

新任 川勝 道夫講師(市病・耳鼻) 三・一・一

安川 奎一 (市病・内科) 三・一・一

太田 孝夫助手(市病・耳鼻) 三・一・一

非常勤講師 宇野 昭二講師(市病・耳鼻) 三・一・一

西条 征男 (保存) 〃

阿部 勤 (補綴) 〃

休職 森田多賀雄講師(口外) 三・一・一

辞任 宇野昭二助教授(市病・耳鼻) 三・三・三

鈴木 繁講師(保存) 三・三・三

田辺 愷技助手(業理) 三・二・七

阿部 勤助手(補綴) 三・一・三

竹内 久衛 (業理) 三・一・三

丸山勝彦 副手(微生) 三・三・三

報告

東京歯科大学同窓会庶務報告

1 現在会員数

内 訳

名誉会員

並通会員

会員の異動

新入会員

退会会員

逝去会員

集 会

総 会

評議員会、支部長会

顧問、参事会、その他懇談会

役員改選

役員改選

昭和三十四年十一月二日母校内に全国支部長会を開き役員任期満了に伴う選挙を行ない次の通り選任した。

会 頭

副会頭

幹 事

谷虎次郎、佐藤徹一郎、斎藤寛三郎、重浦靖治、関根永滋、提敏郎、堀真一、松山茂樹

会計監事

顧問及び参事委嘱

昭和三十四年十二月十三日付を以て、次の通り委嘱した。

顧問 荒谷竜、石河幹武、池

自 昭和三十四年十一月至 昭和三十五年十月

田明治郎、入江義次、上田貞三、小椋善男、北村宗一、九津見肇、鈴木義三郎、田村一吉、徳永寅藏、西村豊治、福島秀策、堀江銑一、矢崎正方、若葉清

参 与

井上真、井上久男、五十嵐庭治、石塚保、市川鶴男、上原崇、牛久保長一、大塚豊美、大村太子二、沢口源作、白川享、清水亥熊、鈴木録二、鈴木重五郎、春原定家、高橋初太郎、中村正夫、中村恒吉、中井武一郎、成富治男、長谷川慶蔵、矢島源太郎、渡辺昌夫

前役員に感謝状並びに記念品贈呈

昭和三十四年十二月十九日前役員並びに会計監事に対し記念品を添え感謝状を贈呈し正副会頭には金巻封を添加した。

役員辞任

昭和三十五年六月五日河村会頭は一身上の都合に依り(日本歯科医師会会長就任)辞任した。同日付をもって河村会頭の委嘱した顧問参事は自然解任となる旨を通告し在任中の御尽力に対し謝意を表した。

役員改選(補欠選挙)

昭和三十五年六月十八日母校内

に全国支部長会を開き(評議員会も同時に開催)河村会頭の辞任に伴う補欠選挙を行ない、まず矢崎正方氏を会頭に選任し、副会頭片山清一氏以下役員並びに会計監事は辞任を届出で更に次の通り選任した。

会 頭

副会頭

幹 事

谷虎次郎、佐藤徹一郎、斎藤寛三郎、重浦靖治、関根永滋、高橋敬文、堀真一、見明 清

会計監事

名誉会員推薦

昭和三十五年七月十五日役員会の決議を経て次の通り推薦した。

大村一男氏、西村豊治氏

顧問委嘱

昭和三十五年七月十五日付をもって次の通り委嘱した。

荒巻広政氏、池田明治郎氏、入江義次氏、上田貞三氏、河村弘氏、北村宗一氏、九津見肇氏、福島秀策氏、藤原四郎氏、堀江銑一氏

評議員委嘱

昭和三十五年七月十五日付をもって北村勝術氏以下六十二名に本会評議員を委嘱した。

会則改正委員委嘱

昭和三十五年八月十六日中井武一郎、石塚保、清水亥熊、中尾一彦、松井隆弘の五氏に委嘱し成案を得た。

退任役員に感謝状並びに記念品

昭和三十五年七月十五日付をもつて今回退任された河村弘、堤敏郎、赤塚康太郎、松山茂樹、大内英男五氏に対し感謝状並びに記念品を贈呈した。

14 役員地方出張

期間中各支部総会、連合同窓会へ講演又は臨席のため出張した役員は会頭以下八名、二十九カ所である。

◇ 逝去 会 員

余田憲一君、田中滝雄君、沢夙造君、本間清君、鷹嘴胖君、平田正義君、愛知由郎君、竹下正雄君、松田卯三郎君、森豊治君、小林祐次君、河合等君、田中隆次郎君、泉田健男君、鈴木惣次郎君、三原

東京歯科大学同窓会事業報告

自 昭和三十四年十一月
至 昭和三十五年十月

1 昭和三十四年十一月三日母校内において第六十五回総会を開き、「WHOゼミナールとニュージラ

吉先生の一周忌法要を営み、聊か報謝の念を捧げた。

3 昭和三十五年六月十九日第七十七回例会を母校内に開き、座談会「会員の声を聴く会」を催し、堀幹事が司会した。更に「咬合採得について」と題する母校養助教授の講演を行なった。

4 昭和三十五年三月二十四日観光開、日本歯科医師会代議員を招待して懇談した。

5 昭和三十五年三月二十四日母校内に東京都歯科医師会代議員を招待して懇談した。

6 昭和三十五年三月二十二日母校内において本年卒業生の本会入会

7 昭和三十五年三月二十五日母校卒業証書授与式に際し、在学中卒業に精勵し、臨床実習成績優秀なる卒業生、上条ユリ、桜井善忠、島田弘量、小宮善明、山口敏雄の五名に対し同窓会賞(賞状、品)を母校に寄託して授与した。

8 昭和三十五年一月二十二日母校顧問沢夙造氏葬儀、同年二月十一日日本会参与中村寅蔵氏葬儀に際し各花環一ヶを靈前に供した。

9 昭和三十五年八月十三日母校教授北村勝衛氏スエーデン国歯科医師会百年祭に出席の後欧米視察のため出発につき銭別(二〇万円)を贈呈しその行を壮にした。

10 昭和三十五年五月二十四日南米チリ地震津波につき太平洋に面した北海道を始め九州に至る二〇支部長宛見舞とかね被災会員の有無調査報告を依頼した。

歓迎会を催し、同窓会バッジを贈呈した。

11 本期間内において死亡又は火災等の会員に対し共済基金を以て弔慰金又は見舞金を贈呈した。

弔慰金(各二万円)

田中滝雄君、穂坂正男君、本間清君、岡島速雄君、東村良雄君、石塚東政君、河西秀君、龜谷輝雄君、田代武二君、小川昭治君、大木忠雄君、余田憲一君、田中隆次郎君、鈴木惣次郎君、友井敏男君、鷹嘴胖君、愛知由郎君、古屋胤次君、片桐正義君、浜坂智則君、小林祐次君、高橋殷興君、坂井敬隆君、三原達治君、中村寅蔵君、浅野丹次君、矢島浩君、松添信四郎君、

宇都良視君、松田卯三郎君、相木鶴彦君、森豊治君、吉田建土君、沢夙造君、森本金之丞君、磯浩三君、風間又四郎君、池田盛君、関田貞次君、細川元孝君、大塚釜衛君、竹下正雄君

火災見舞金(各三万円)

松村正澄君、藤江義三君、長内岩七郎君

坪井邦久君を悼む

市川病院 高 達

数日前坪井君が過労のためたおれたので急ぎ応援を求むる旨の電話が私の令夫人よりかかって何とはなしに不吉予感に襲われていた矢先、二月二日午後十時遂に逝去の悲電に接し、今さらながら人命の脆さを痛感せざるを得ない次第である。

君は郷里の佐賀県小城中を卒業後、直ちに母校に入り、昭和十三年後、引き続き口腔外科学教室の研究生として研鑽中、十四年応召、朝鮮平壤部隊より鴨緑江ダム守備飛行部隊に所属され、大いに活躍したが、十八年召集解除となり、母校に復帰、助手を拝命した。遇々、母校周辺の爆撃に際し、身を賭して真に応急、適切な措置を敢行、よく母校を危地より救った。その功績により故奥村学長より表彰されたことは人の記憶に残るところであらう。

昭和二十一年、大学予科の開校と同時に市川病院を併設するに当り、君は病院主事に任せられ、その健康と精力的な斗志にものを言わせて昼合掌。二月八日味。

夜を別たず診療に亦病院管理にその敏腕を振った。

二十三年助教に任ぜられ、かねて研究中の学位論文を完成、二十七年選ばれて国立弘前病院歯科医長に榮進、その後同地に独立開業した。日ならずして業務大いに進展した。これは君が手腕と信望とに負ふ所多大なことは申すまでもない処である。

君は亦、多趣味にして、写真は素人の域を脱し、スポーツでは中学時代より庭球の選手として鳴らした。市川病院グランドの建設などに貢献した。君はまた酒を愛し宴酣となるや朝鮮時代に習得した民謡アリラン、又は鴨緑江節などの名調子は一座を魅惑し去ったことも今は昔の語り草となった。思えば平素頑健そのものの君が四十八歳の働き盛りを一期として急逝するに至ったことは返えすがえすも遺憾の極みである。

ここに君が生前の追憶を新たにするとともに君が功績を称えて、謹みて御冥福を祈る次第であります。

合掌。二月八日味。

水書見舞金(各一千円)

安田良造君、成田文治君、成田弥男造君

12 本年度内に会報六回(自第七十一号、至第七十六号)発行全会員に郵送した。

13 本年度中総会例会等開催毎に歯科商店の協力を得て歯科用品展示即売会を開催した。(以下次号)

学位受領者紹介

村田茂君



昭和二十二年母校卒業、二十五年九月まで芝浦の岡本歯科医院に勤務後、現在の新宿区西大久保に医院開設、歯科診療に従事しておられる。

昭和三十年本学病理学教室に入室松宮教授指導下に精励せられていたが、一昨三十四年十一月、東京医科大学に学位請求論文提出、昨年二月十七日出席度同大学教授会通過、主査、大高教授(病理)副査、原教授(薬理)同、飯島教授(小児科)三十五年四月九日付栄ある学位記を受領された。謹んで祝す。

主論文 水酸化カルシウム、エーノールを以てする乳歯の感染根管治療の実験的研究
他に参考論文六篇

森本優君



東京都出身、昭和二十四年母校卒業後、研究生として保存部に席をおき、二十五年助手

三十年には講師に就任せられ現在に至っている。この間関根永滋教授御指導のもとに幾多の貴重な業績を発表し、去る三十二年論文「即時重合レジン充填材の歯髄に及ぼす影響に関する臨床病理学的研究」及び副論文九篇をもって神戸医科大学に学位請求を行ない、三十三年五月七日に

藤田登教授主査により教授会を通過、こえて六月二十一日付で学位記を受領された。

小林寛一君



埼玉県出身、昭和十二年母校卒業、関根教授指導のもとに臨床並びに研究に従事された

が、のち札幌市に移住、十七年同地に開業された。現在は同君の手腕がかわれて北海道歯科大学理事その他多くの要職につかれ、特に北海道歯科医師会雑誌、道歯通信の編集に御活躍され、また、日本歯科医師会雑誌地区編輯委員をつとめている。その間、二十九年北海道大学医学部解剖学教室入室、三十三年三月同大学に学位請求論文を提出し、通過、同年五月学位記を受領された。なお現在も同研究室員として研究を続行中である。主論文「森アイヌ歯牙の人類学的研究」

長谷川正康君



昭和十七年九月母校卒業、直ち同年十月入隊し、終戦後二十一年五月に復員、六月には

母校保存部助手、二十二年助手、二十五年講師、二十七年助教授に就任し現在に至る。なお二十五年講師就任と同時に早稲田大学診療所歯科医長として母校より派遣されて大いに

活躍しておられる。

その間、関根教授御指導のもとに研究に従事し、三十三年に慶応大学医学部に主論文「ペニシリンを主剤とした糊剤による生活歯髄切断法に関する臨床病理学的研究」をもって学位を請求、同年五月二十七日小林忠義教授主査により教授会を満場一致通過、七月十二日には学位記を受領された。また同君は昭和三十三年には血協賞を受与されている。

駒橋武君



埼玉県出身、昭和二十三年母校卒業後直ちに保存部研究科に席をおき、二十四年助手

二十八年講師、三十二年助教授に就任され現在に至っている。その間、関根教授御指導のもとに同教室において研究され、三十四年主論文「即時重合レジン充填の歯髄に及ぼす有害作用並びに遮断法(間接歯髄複層法)に関する臨床病理学的研究」をもって神戸医科大学において学位を得られた。なお主査は藤田登教授で、同年八月十九日教授会通過、学位記受領は十月九日付である。

多湖健治君

昭和十一年母校卒業後、十四年札幌通信病院に歯科医長として勤務、二十四年には同院歯科部長に就任し現在に至っている。二十九年には勤務の傍ら札幌医科大学解剖学教室に専攻生として入室、渡辺左郎教授のもとで研究に従事され、主論文

「家兎の卵巣及胎盤におけるアルカリフォスファターゼの組織化学的研究」副論文六編をもって北海道大学に学位請求、三十四年十二月十七日伊藤昌一教授主査のもと満場一致で通過し、こえて三十五年二月十一日付で学位記を受領された。

下村登君



広島県立府中中学をへて昭和十六年暮母校卒業。現役志願で入隊し、終戦時陸軍少佐でラバウルより復員。同年秋より一年間大井教授のもと口腔外科を勉強し、新橋駅附近に勤務され、三十一年春港区芝南佐久間町一ノ五三一に医院開設された。翌春東邦医大微生物学教室に入り学位論文に精励されることとなった。本年四月十二日の同大学教授会にて桑原教授主査の下論文理過し、六月一日付学位記が授与された。新博士の家庭には房子夫人との間に二男あり、余暇に釣を楽しんでおられる。この九月で満四十二才。期界のため健康を祈る。

主論文

ウエルシュ菌の合成培地について(日本細菌学雑誌十五卷十一号)(米沢和一記)

加藤一君



昭和三年神田の生れて、同二十六年母校卒業。始め同窓の中村歯科医院に勤務され、同二

十八年東京医歯大補綴学教室に専攻生となり、次で同二十九年春、口腔衛生学教室に転部されたが、テーマの都合上、生化学教室荒谷教授の下で学位論文を完成された。同三十四年六月十七日の同大学医学部教授会にて、主査宮本教授の下、満場一致で論文通過し、越えて同年七月二十一日付栄ある医学博士の学位記が授与された。国立王子病院歯科にもおられたが、目下吉祥寺二八五二で開業中の新博士は、勤勉家で粘り強く、渋谷区青葉は勤勉家で粘り強く、渋谷区青葉十四の自宅には薬剤師の夫人との間に一女がある。主論文「口腔歯牙歯胚の燐酸代謝の研究(口腔病学会雑誌二十六卷一號)。慶祝(黒須一夫記)」

岩沢正和君



昭和二十三年春母校卒業後、千葉県教育委員会技師に任ぜられ、歯科衛生を主管して現在に至っている。同三十年末より私の教室へ千葉県当局から派遣された。螢雪の功成り、予て提出中の論文は同三十四年七月東京医歯大医学部教授会にて主査太田邦夫教授の下、満場一致通過し、越えて同年十一月二十日付栄ある医学博士の学位記が授与された。新博士は同窓の横浜市立医大歯科教授岩沢易博士の長男で、非常に綿密な頭脳の特主で能吏型の様だが、一面明朗かつユーモアあり、将来行政面に大いに手腕を振われる事と思う。(六頁へつづく)

各地同窓会のうごき

近畿連合同窓大会

晩秋の十一月二十三日、恒例の近畿連合同窓大会は、東京より福島学長、矢崎会長、安島理事、榎本元会長、三浦事務局長を迎え、奈良県支部担当の下に奈良ホテルに於て盛大に開催された。午前十一時頃より参り者陸続、京都、大阪、兵庫、滋賀、和歌山、奈良の六支部より集る者百三十名、午後一時記念撮影を行ない、二台のバスに分乗、観光に向う。先ず高円山の万葉ドライブウェイ、春日奥山、新若草山のドライブは折悪しく曇天の爲め雄大な大和平野の眺望は逸したが、それでも残りの紅葉にわれわれの日を楽しませるものの、バスガイドの説明にて万葉人の優雅な生活を思ふには充分なものがあった。続いてバスは東洋文化の古里と呼ばれる斑鳩の里に法隆寺を訪ね、引返して西の京に薬師寺、唐招提寺を訪れ、飛鳥、白鳳、天平に亘る仏教美術の粋を拝観し、古都の情緒を満喫して、薄暮、会場の奈良ホテルに帰着した。

大会は午後五時よりホテル大食堂に於て校歌合唱に始まり、去る五日同窓会評議員会に出席のため上京の途次、急逝せられたる塚本勝也兵庫県支部長、其他物故会員の追悼黙禱を行ない、平井奈良県支部長の開会の辞あり、次いで矢崎新会長の挨拶を拝聴、同窓会の在り方を深く検討し、役員諸君と共に時代にマッチし

た新しい運営を図り、多くの希望を具体化して、本会並びに母校の永遠の隆盛を維持し度、会員諸君の積極的な御助言と御協力、御支援を頂き度いとお言葉であった。続いて榎本先生より近畿連合同窓会の思い出に就き御挨拶があり、安島幹事より過般の会則改正に就いて報告、説明が行なわれ、福島学長よりは母校



の近況を詳しく御報告せられ、御挨拶があった。引続き片山副会長、兵庫県支部長代理沢田草三君の挨拶等々あり。その頃より宴ますます酣となり、奈良県会議員岩崎之君令嬢のピアノ演奏などあり、会場は各テーブル共懇親の度いよいよ深く、その間次期開催地を大阪府に決定の報告あり、秋岡大阪府支部長の挨拶を兼ね

(七頁へつづく)

(五頁よりつづく)

主論文

小窩裂溝における初期齲食の臨床的診断法に関する研究(口腔病学会雑誌二十六巻二号)。慶祝。

(岡本清穂記)

山路 千 秋君



和歌山県出身で昭和三年母校卒業。直ちに志村誠鷹ドクトルの診療所に勤務され、その後港区に開業されたが、戦災のため鎌倉に移転。同二十八年千代田区麹町六ノ二の現住所に移転され、開業の傍ら同三十一年春より東京医歯大の私の教室及法医学教室で学位論文に精励された。雪の功成り、予て提出中の論文は同三十四年四月十五日同大教授会にて主査古畑種基教授の下満場一致通過し、五月二十二日付栄ある医学博士の学位記を授与された。新博士は、勉勵家であり福徳円満な好紳士である。

本邦人男児歯牙のレントゲン所見による年令推定に関する研究(犯罪学雑誌二十四巻五号)。慶祝。

(岡本清穂記)

森田 純 司君



昭和十九年秋母校卒業。直ちに海軍軍医学校に入學し、同二十年一月卒業。佐世保海兵団医務科勤務で終戦と現住所、横浜市鶴見区鶴見町九八九の下で開業。同三十年四月より私の教室に研究生として入室され、学位論文をまとめられ、同三十四年十二月二日東京医歯

大医学部教授会にて主査北教授の下論文通過し、同三十五年二月十八日付栄ある医学博士の学位記が授与された。新博士は細い身体に似合わず頑強りやであり、夫人も歯科医で盛業である。

主論文

齲食活動性試験法としての唾液緩衝能、酸産生能およびアンモニア窒素量測定に関する研究(口腔病学会雑誌二十六巻三号)。慶祝。

(岡本清穂記)

柿原 不器 郎君



宮崎県生まれで昭和二年母校卒業。直ちに賛育会病院に勤務の傍ら赤坂の青山北町に開業。同十六年北京大学医学部教授となられた。終戦後帰国、東方歯科に勤務され、次で大船の非現業員組合病院歯科部長に転じて卓抜な臨床手腕を振われる一方、東京医歯大の私の教室に籍を置き法医学教室で学位論文を完成された。予て提出中の論文は同三十四年十月七日同大教授会にて主査古畑種基教授の下通過し、十一月二十五日付学位記授与された。新博士は希に見る誠実な人で資性誠に温厚。目下石川県金沢市尾張町四九に移転開業中である。長男昌一郎君は同三十四年母校卒業後静岡日赤病院歯科勤務。

口腔諸組織の死後変化に関する実験的研究(犯罪学雑誌二十五巻二号)。慶祝。

(岡本清穂記)

鈴木 文 信君

大正六年二月横浜市で生まれ、昭和十五年春母校卒業。まもなく陸軍東部大部隊に入り、同十八年十二月



現在の東芝電気鶴見病院に勤務。同三十年十月より私の教室に研究生として入室せられ、学位論文に熱情を傾けられた。雪の功成り予て提出中の論文は、同三十五年二月十七日東京医歯大医学部教授会にて主査教授の下満場一致通過し、同年三月二十八日付栄ある医学博士の学位記が授与された。新博士は、見るからにまじめな一方、堅苦しいという学生時代からの評判少くである。

主論文

学童第一大臼歯の齲食罹患推移形式に関する研究(口腔衛生学会雑誌九巻四号)。慶祝。

高橋 秀 雄君



和歌山市を本籍とし、岡山県津山中学を経て昭和十四年母校卒業直ちに渡瀨、郷家屯べスト調査所に勤務、同十八年末、大連衛生研究所に転勤、終戦で留用。同二十八年末、貴陽医科大学に勤務、同三十年春引揚げて来られた。同年七月国立柏崎研究所検査科に勤務の傍ら、満州時代の旧師、現北里研究所春日忠善部長の下にて在満時代の研究論文を完成された。予て提出中の論文は、同三十五年二月二十九日の慶大医学部教授会にて、牛場大蔵教授主査の下通過、越えて五月二十三日付医学博士の学位記授与された。新博士は目下、同病院に程近き柏戸根戸四六九で開業。

主論文

ベスト菌のエンペロブ消失変異に関する研究(英文、北里実験医学、三十二巻一号)。慶祝。

(榎本 起記)

(六頁よりつづく)
て、本会に対する二、三の要望発表があり、最後に片山副会長の発声に依り近畿連合同窓会の万歳を三唱、名残りを惜しみつつ本大会を閉じ、午後八時散会した。(平井義英記)

浅草支部

快晴に恵まれた一月十四日(土)午後六時半田原町角「やつこ」料亭に於て我等の同窓会浅草支部新年会を開催した。来賓として浅草にもっとも縁故の深い副会長の田丸先生をお迎えして、懐かしい昔晤の一席を持ちたいという切なる希いが叶った訳である。熊谷理事司会の下に山添理事の開会の言葉、続いて中久喜支部長の挨拶「本年は辛丑に当り牛の如く大業を一步一歩力強く踏んで堅実に俺等が她まず目的に向つて突進し大なる成果を挙げよう努力し、本席はやかましい問題は一切抜きにして楽しく呑み、和やかに唄い大いに若返りたい」と結び、田丸副会長の紹介者に当支部で多年苦業を共にした沢口顧問を指名した。鷹かた氏は古い沢山の写真やアルバムを回覧させつつ双杯会や高風会の由來を語り、其の後東京都歯科医師会浅草支部と改組せられた第一期池野谷支部長の時幹事に就任、庶務を担当、第二期沢口支部長の時二期間庶務主任として劃期的の手腕と業績を残し、又学校歯科医として田原小学校を一躍全国的に有名校たしめた其の努力は洵に目覚ましいものであった。果せるかな日本歯科医師会理事に拔擢せられ、又其の後には上田東京都歯科医師会長の下に会計主任理事に起用せらるるなど益々々々弁する底力を發揮、今や選ばれてわが同窓会副会長に相成られた次第で、

此の上は尚一層本腰を入れて後身の指導と鞭撻をお願い致さねばならぬと結んで座に下る。纏て田丸先生立って約卅分に亘る有益なる全国同窓並びに同業の分布状況その基礎など解説せられ、今後の医政問題の在り方、推進力など限りなき蘊蓄を披露して一座を謹聴せしめた。

次いで宴会に移り、佐藤徳三郎君の発声で乾盃やお家宴、各自ののど自慢、隠し芸の数々も出て、仲を取持つ彼女達も仲々に忙しそう、仍て



この一、二年同窓会報に珊瑚会という名が見当たらないので、クラス会報には珊瑚会に既に消滅したのではないかとと思われる方もあられることと存じますので、久し振りに筆をとることに致しました。吾等珊瑚会は決して消滅してはおりません、御安心を乞う。

昭和三十四年度十一月の同窓会総会後盛大に会催す積りで全国会員に往復ハガキで御通知致しました処御便りを戴いたのが僅か半数、又時日も逼迫しておいたため、適当な場所も予め決定すること出来ず、当日になって足立区開業の木村善利君の御好意により、浅草の支那料理や正華で開催、当日集ったもの二十数名群馬の田村君、金沢の芦本君、牧野君、静岡の林君等々遠来の同窓が一室に会し、久し振りに三十年前の学生時代に帰り、一タ楽しく過したのであります。

昨年はちょうど母校創立七十周年の祝賀会が催されるので、会員もそちらの方に出席される方が多いことと存じ、別に、別々クラス会を開く積りはなかったが、母校の祝賀会終了後有志四、五人で台東区開業の山添君の御好意により浅草の近くでささやかながら楽しく一タを過したのであった。当日の催しの中、今から約廿年前、新聞の三面記事を読んだ阿部定が出て来て、皆にサインをしてくれたことであつた。当時の男性の心胆を寒からしめた女性とは思えぬ程

クラス会 便り

貞淑なお婆さんであるのには、一同驚いた次第である。

扱て今年はいよいよ卅二年に相成るので、今秋あたり一度盛大にクラス会をやってみようではありませんか、母校も今年は祝賀行事もありませんから、殊に今年は吾等の代表の一人関根君が六、七月頃欧米視察に母校より派遣される由、今秋には同君も帰国される話でありますので、歓迎会を兼ねて一人でも多くの方々が上京されて、関根君の視察談を拝聴することに致してはと存じております。

先きに松宮君が東南アジアから欧州視察に行かれて帰国後、クラス会を熱海で開催し、同君の有益なる視察談、殊にクラス会でなくては話せぬ重要な講演を拝聴したのであります。関根君が、今度もその点百も承知のなる視察談は山程持つて来られることと存じますので、会員の皆様今から大いに期待しておって戴き度いと存じます。

尚この際特に御願致しますことは、今年はいよいよ川年を過ぎたのでありますので、家庭的にも既にある程度のゆとりが出来た頃と存じられますので、原則として奥さん御同伴で集るということに決め度いと存じます。

若し当日止むなく奥さん同伴出来ぬ場合は、一時屋でも同伴にて必ず出席のこといづれ詳細は御通知致します。御賛成の程御願致します。

一月十日 幹事長 田上末吉

一期会

○立春も過ぎようやく春めいてきましたが、一期会々員の皆様には御元気で日々御活躍のことと思ひます。

世にまさに物情騒然と落着く暇もなく、医療費問題についても危機に迫りやられ一せい休診のやむなき処置をとらねばならないことは、誠に困った問題であります。

○「医療危機突破大会」国民の医療を守る集会」などが開催され、その集会場で互に久しく御無沙汰していた級友が顔を合せ、言葉をかけあったり、時には水道橋の母校に立寄り、多くの級友に会つていろいろ旧交を温めたりできるのは、思いもかけぬ副産物であり、よろこばしいことであります。

○昨年箱根で開催された「一期会第二次総会」にて決定した一期会役員改選の結果、会長は見明君の再選となり、以下副会長及び各役員の選出は左記のように決定しました。

副会長 関根・莊

企画 倉繁・大森・津島・坂田 庶務 佐藤(徹)・宝田・片倉 会計 羽賀・山本(勝)

尚、各地方ブロックにおける支部長の改選結果は、近日中に決定次第直接各個に御願ひ旁々御連絡致します。

○大阿蘇の観光を(木屋和雄君記) 今秋昨年は榮ある国体が熊本県において行なわれます。不肖私の家内が数年前の名古屋の国体に出場しましたのでちょっと関心が持たれました。かつての大戦で消滅した熊本城

「う」ックスな設
おでかけ下さい。
地元の紹介記事となり、甚だ恐縮
ですが……おゆるし下さい。一期会
諸兄の御健康と御発展を御祈り申上
げます。「抜粋」「係」
の他、世界に燦たる大阿蘇観光は誠
に一興であります。御家族御同伴で

級会名一覽表 (昭和三十六年一月末日現在)

大正元年より昭和三十五年度までに卒業した級の名称で、現在同窓会
に届出のあったものをここに掲載しました。

大正元年	明正	昭和十二年	蜂和
二年	無二	昭和十三年	昭久
三年	三水	昭和十四年	天心
四年	東四	昭和十五年	仁峰
五年	正二	昭和十六年三月	燦志
六年	丁巳	昭和十六年十二月	堅久
七年	大巳	昭和十七年九月	一志
八年	互發	昭和十八年九月	二六
九年	赤心	昭和十九年九月	五十一
十年	戊干	昭和二十年九月	五十二
十一年	新窓	昭和二十一年	五十二
十二年	申齒	昭和二十二年	五十二
十三年	十窓	昭和二十三年	五十二
十四年	壬戌	昭和二十四年	五十二
十五年	更生	昭和二十五年	五十二
十六年	更生	昭和二十六年	五十二
十七年	更生	昭和二十七年	五十二
十八年	更生	昭和二十八年	五十二
十九年	更生	昭和二十九年	五十二
二十年	更生	昭和三十年	五十二
二十一年	更生	昭和三十一年	五十二
二十二年	更生	昭和三十二年	五十二
二十三年	更生	昭和三十三年	五十二
二十四年	更生	昭和三十四年	五十二
二十五年	更生	昭和三十五年	五十二

現住所変更 (敬称略)

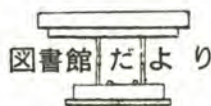
渡辺琢也(33) 千代田区神田駿河台
明治大学大学院歯科室
田中 悦(31) 渋谷区金王町八 金王
ハウス内
武久謹也(24) 中央区銀座七ノ三
(旧名澄一)
浦 宣雄(46, 25) 岐阜市金町八丁目
間屋ビル四階 岐阜歯
科医院
重浦卓一(10) 港区芝田村町三ノ三
国際海運新聞社ビル二
階
平山州一(30, 6) 弘前市本町八六ノ二
上子太伊蔵 水戸市石川町四〇四三
布施勝可(32) 札幌市南十四条西七丁
目

訂正お知らせ

前号記載現住所変更中の
服部左門(14)・服部玄門(33)は、
服部左門14・服部玄門(33)の間違
いに付訂正申し上げます。

逝去会員

延島幸三郎氏 享年三十三
牛野利三郎氏 享年三十九
牛片倉伊八氏 享年三十九
井上 敏雄氏 享年三十三
坪井 邦久氏 享年三十二
玉置 正知氏 享年三十二
田川 正次氏 享年三十二
田倉 滋氏 享年三十二
宮崎 泉



第八号

左に列記したものは最近図書館で購入した専門書の一
部です。
このリストは逐次掲載されますから、図書目録とし
て御使用になれば御便利かと存じます。

「和書」

深田英朗、杉田 長生 小児の抜
歯(歯科写真文庫) 医歯薬出版 昭和三五
John C. Braver 等著 落合靖一訳 小児歯科学 医歯薬出版 昭和三五
総山孝雄 レジン充填(臨歯選書) 永末書店 昭和三六
並川淳一 ポーセラミッククラウン 医歯薬出版 昭和三五
今川与曹 膿漏処置の実際 医歯薬出版 昭和三五

「洋書」

Bourne, H. G.: Nitrous Oxide in Dentistry. - Its danger and
alternatives- London, Lloyd-Luke Ltd. 1960. 181p.
Tylman, S. D.: Theory and Practice of Crown and Bridge
Prostodontics. 4th ed. St. Louis, The C. V. Mosby, 1960. 1063p.
Sorrin, S.: The Practice of Periodontia. (Oral Medicine)
New York, McGraw-Hill Book Co., 1960. 496p.
Peyton, F. A.: Restorative Dental Materials. St. Louis, The C. V. Mosby, 1960. 542p.
McCracken, W. L.: Partial Denture Construction. - Principles
and Techniques- St. Louis, The C. V. Mosby, 1960. 528p.
Massler, M.: Atlas of the Mouth in Health and Disease. 2nd ed.
Chicago, A. D. A., 1958. 67plates.
A. D. A.: American Dental Associations for dental materials.
4th ed. Chicago, A. D. A., 1960. 85p.
Vest, G.: Lehrbuch der Zahnärztlichen Kronen und Brücken-
prothetik. Bd. 2: Brückenprothetik Basel, Birkhäuser Verlag, 1960. 487s.